# 交付運用報告書

## スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

追加型投信／国内／株式

第6期（決算日 2022年6月20日）
作成対象期間（2021年6月22日～2022年6月20日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、『スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）』は、このたび、第6期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド受益証券を通じて、日本の上場株式のうち中小型株に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本としました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

| 第6期末（2022年6月20日） | |
|---|---|
| 基準価額 | 18,658円 |
| 純資産総額 | 468百万円 |
| 第6期（2021年6月22日～2022年6月20日） | |
| 騰落率 | △5.8% |
| 分配金合計 | 0円 |

（注）騰落率は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

＜ お問い合わせ先 ＞
スパークス・アセット・マネジメント株式会社
東京都港区港南一丁目2番70号　品川シーズンテラス
リテール・ビジネス・デベロップメント部
電話：03-6711-9200（代表）
受付時間：営業日の9時～17時
ホームページアドレス：https://www.sparx.co.jp/

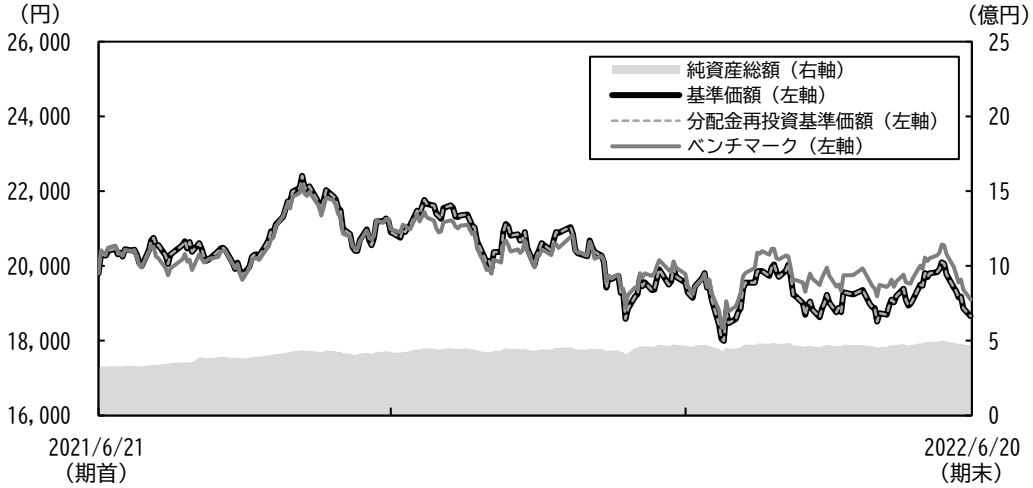
当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

＜ 閲覧方法 ＞
上記ＵＲＬにアクセス⇒「スパークスの投資信託」より「投資信託一覧」の当ファンドを選択⇒「運用報告書（全体版）」を選択

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移　(2021年6月22日～2022年6月20日)

基準価額は期首に比べ△5.8%(分配金再投資ベース)の下落となりました。




第６期首：　19,797円
第６期末：　18,658円(既払分配金0円)
騰　落　率：　△5.8%(分配金再投資ベース)

※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。
※ ベンチマークは期首(2021年6月21日)の基準価額に合わせて指数化しております。

### ■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・日本中小型株・マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)を通じて、日本の中小型株式に投資しております。当期は日本株式市場が上昇する運用環境の中、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資いたしましたが、基準価額は期首に比べ△5.8%(分配金再投資ベース)の下落となりました。

## ■ １万口当たりの費用明細

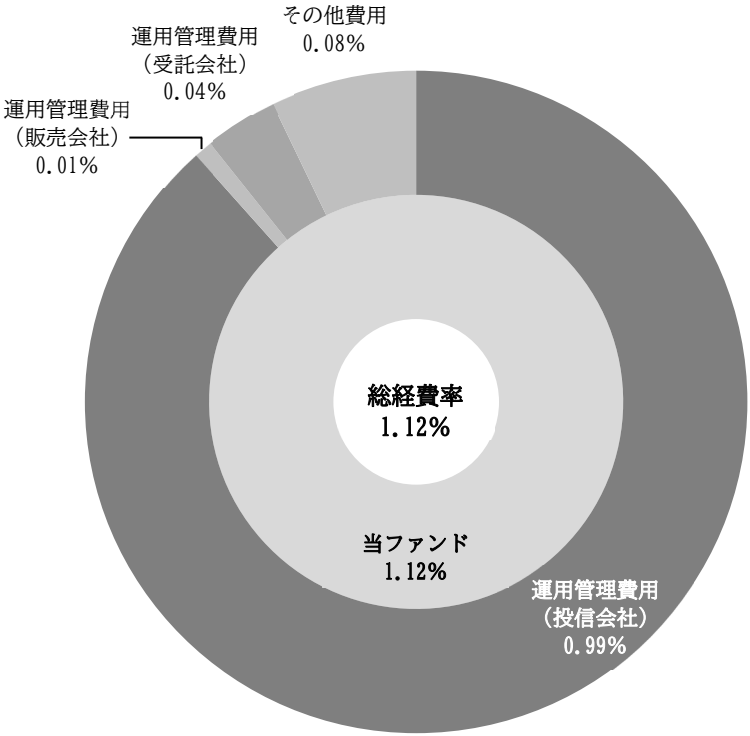
| 項目 | 当期 2021年6月22日～2022年6月20日 金額 | 比率 | 項目の概要 |
|---|---|---|---|
| (a) 信託報酬 | 208円 | 1.030% | (a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 |
| （投信会社） | ( 199) | ( 0.985) | ・ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 |
| （販売会社） | ( 2) | ( 0.010) | ・購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| （受託会社） | ( 7) | ( 0.035) | ・ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 11 | 0.054 | (b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 |
| （株式） | ( 11) | ( 0.054) | ・有価証券等を売買する際に発生する費用 |
| （投資証券） | ( 0) | ( 0.000) | |
| (c) その他費用 | 16 | 0.079 | (c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| （監査費用） | ( 3) | ( 0.015) | ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （印刷費用） | ( 13) | ( 0.064) | ・法定書類等の作成、印刷費用 |
| 合計 | 235 | 1.163 | |
| 期中の平均基準価額は20,201円です。 | | | |

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

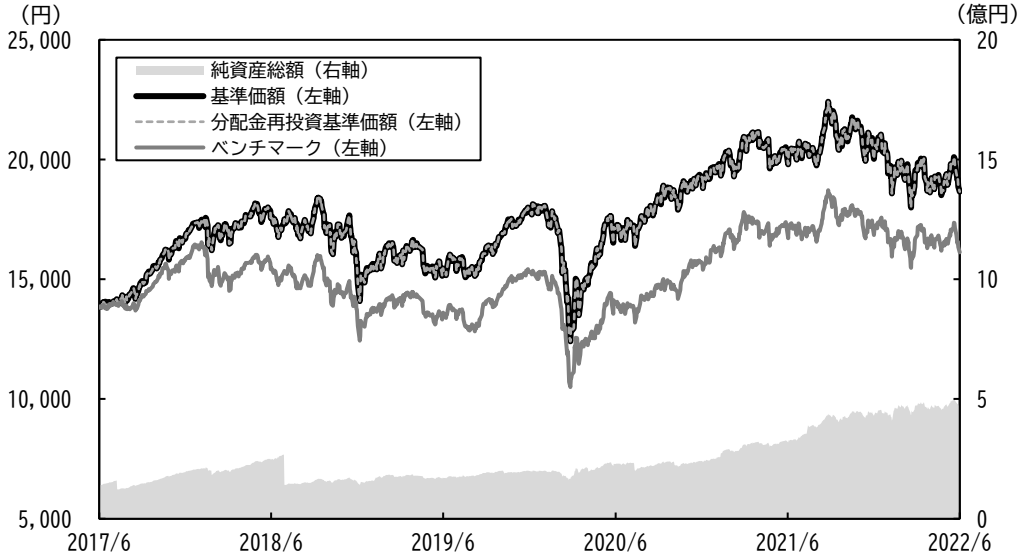
○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.12%です。




（注）当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ■ 最近５年間の基準価額等の推移 （2017年6月20日～2022年6月20日）




※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
※ ベンチマークは2017年6月20日の基準価額に合わせて指数化しております。

| | 2017/6/20 決算日 | 2018/6/20 決算日 | 2019/6/20 決算日 | 2020/6/22 決算日 | 2021/6/21 決算日 | 2022/6/20 決算日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基準価額 （円） | 13,855 | 17,608 | 15,446 | 17,160 | 19,797 | 18,658 |
| 期間分配金合計(税込み) （円） | － | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 （%） | － | 27.1 | △12.3 | 11.1 | 15.4 | △ 5.8 |
| ベンチマーク騰落率 （%） | － | 11.8 | △12.2 | 2.7 | 19.6 | △ 3.5 |
| 純資産総額 （百万円） | 138 | 247 | 170 | 229 | 318 | 468 |

※ 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。
※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。
ベンチマークの詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## ■ 投資環境

当期の日本株式市場は、通期で小幅に下落して終了しました。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続く中、世界的な低金利政策や各国政府の積極的な経済対策から市場は堅調に推移しましたが、期末にかけて各国中央銀行による金融政策の正常化に向けた動きの進展や、新型コロナウイルス変異株の世界的な感染拡大などから下落基調をたどりました。

## ■ ポートフォリオ

**＜ スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） ＞**

当ファンドは、マザーファンドを通じて、日本の中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行うことを基本とします。当期、マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。このため基準価額は、マザーファンドに組み入れられた資産の変動の影響を大きく受けました。

**＜ スパークス・日本中小型株・マザーファンド ＞**

当ファンドでは、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資いたします。また、市場における過度な悲観や関心の低下により、弊社が計測する長期的な企業価値に対して割安に放置されていると考える企業にも投資を行います。

あらかじめ業種毎の比率を決めてから銘柄を組み入れるのではなく、ボトムアップ・リサーチに基づき投資魅力が高いと考える銘柄を選別し、株価上昇余地やリスク要因、株式の流動性や株価が再評価されるまでの時間軸等を考慮して、ポートフォリオを構築しています。

当期においては、ペットボトル需要増の恩恵を受けると見込まれる日精エー・エス・ビー機械や、洋上風力発電をはじめエネルギーインフラ投資増が追い風となるタダノ、半導体微細化進展により事業機会が見込まれるウシオ電機などに投資を行いました。

一方で、インターネット広告代理店のセプテーニ・ホールディングスや、戦略コンサルティングを営むシグマクシス・ホールディングス、地質調査や建設コンサルティングを提供する応用地質などの株式を売却しました。各銘柄とも、株価上昇により目標株価を達成したことが売却の理由です。

（主なプラス要因）

当期のパフォーマンスに貢献した主な銘柄は、セプテーニ・ホールディングス、日本特殊陶業、キトーなどです。

セプテーニ・ホールディングスはインターネット広告代理店大手の一角です。当ファンドでは、電通との資本業務提携による、案件規模の大型化や今まで手掛けられなかった超大手企業への事業展開に期待し投資を行っています。当期においては、電通との資本業務提携強化が発表され、電通子会社の業績を同社が取り込むこととなったことを受け、利益成長への期待から株価は上昇したものと考えます。

日本特殊陶業は世界シェアトップクラスを誇る自動車用エンジンの点火プラグや排ガスセンサのメーカーです。当ファンドでは、採算性の高い新型センサが更新サイクルを迎えることによる利益率の改善に加え、創出される潤沢なキャッシュを活用した新規事業展開が進むことを想定し投資を行っています。当期においては、新型センサの更新増加だけでなく自動車生産の減少によるプラグ更新需要の増加から、市場期待を大きく上回る業績を達成したことを受け株価は上昇したものと考えます。

キトーは巻き上げ機など工場向け搬送装置の主力メーカーです。当ファンドでは、主要市場の堅調な受容環境を背景に、低迷していた需要の回復余地は高いと判断し投資を行っています。当期においては、KKR(米国デラウェア州法に基づいて設立された投資顧問会社であるKohlberg Kravis Roberts & Co. L.P.の関係会社及び関連ファンドを含める)によるTOB(株式公開買い付け)により、傘下の米国クロスビーグループと経営統合するとの発表がなされ株価はTOB価格近くまで上昇したものと考えます。

（主なマイナス要因）

当期のパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄は、アウトソーシング、シークス、アルヒなどです。

アウトソーシングは製造業を中心とした製造業派遣を行う企業です。当ファンドでは、コロナ禍を契機とした同社の業界内シェアアップや海外展開の加速に期待し投資を行っています。当期においては、子会社であるアウトソーシングテクノロジーを中心に複数社で不適切会計が発覚、先行き懸念の高まりから株価は下落したものと考えます。

シークスは自動車部品などを受託製造する大手EMS(電子機器受託製造)企業の一角です。当ファンドでは、グローバルな製造の地産地消が進行する中、世界各地に拠点を有し顧客ニーズに的確に対応できる大手EMS企業の事業機会増加に期待し投資を行っています。当期においては、半導体不足などに起因する自動車生産台数の減少により同社への製造委託需要が減少、短期業績悪化を懸念され株価は下落したものと考えます。

アルヒは、フラット35などの住宅ローン商材を販売する中堅企業です。当ファンドでは、住宅需要の中古シフトが進展する中、不動産業者との接点を持ち、スピーディーに審査やローン組成を行う同社のシェアアップは今後も継続するほか、新たなサービス展開の進展を見込み投資を行っています。当期においては、コロナ禍によって同社が高いプレゼンス(影響力)を有する関東圏において中古物件が減少し、ローン組成数が停滞したことを受けて業績が悪化し株価は下落したものと考えます。

〔 組入上位10銘柄 〕

前期末(2021年6月21日)

| | 銘　柄　名 | 比率(%) |
|---|---|---|
| 1 | 前田工繊 | 4.0 |
| 2 | センコーグループホールディングス | 3.8 |
| 3 | 三洋化成工業 | 3.0 |
| 4 | シークス | 2.8 |
| 5 | 日本光電工業 | 2.6 |
| 6 | シグマクシス | 2.5 |
| 7 | ＮＥＣネッツエスアイ | 2.5 |
| 8 | 住友ベークライト | 2.4 |
| 9 | サイゼリヤ | 2.3 |
| 10 | 九電工 | 2.3 |

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

当期末(2022年6月20日)

| | 銘　柄　名 | 比率(%) |
|---|---|---|
| 1 | ＮＥＣネッツエスアイ | 4.9 |
| 2 | 前田工繊 | 3.6 |
| 3 | 日本特殊陶業 | 3.3 |
| 4 | 山一電機 | 3.1 |
| 5 | 日本光電工業 | 3.0 |
| 6 | センコーグループホールディングス | 2.9 |
| 7 | シークス | 2.7 |
| 8 | マクロミル | 2.7 |
| 9 | バリューコマース | 2.6 |
| 10 | 九電工 | 2.6 |

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

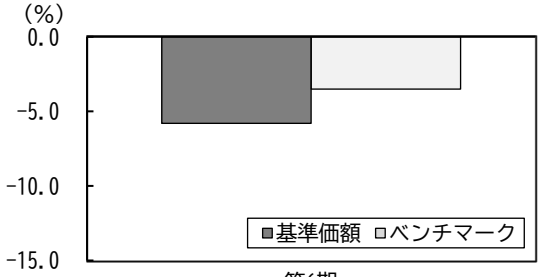
## ■ ベンチマークとの差異

当期、当ファンドの騰落率は△5.8%となり、ベンチマークの騰落率である△3.5%を下回りました。

ベンチマークとの比較において、業種効果はマイナスに、銘柄選択効果はプラスとなりました。業種単位ではその他製品、金属製品、建設業などがプラスに、銀行業、サービス業、海運業などがマイナスに影響しました。

※ ベンチマークは、「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)




第6期
(2021/6/22 ～ 2022/6/20)

(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

## ■ 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔 分配原資の内訳 〕

（単位：円　1万口当たり・税込み）

| 項　　目 | 第6期<br>（2021年6月22日～<br>2022年6月20日） |
|---|---|
| 当期分配金<br>（対基準価額比率） | －<br>（－％） |
| 当期の収益 | － |
| 当期の収益以外 | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 8,657 |

（注1）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
（注2）該当欄に数値がない場合は「－」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。
（注3）当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

# 今後の運用方針

**＜ スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） ＞**

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。

**＜ スパークス・日本中小型株・マザーファンド ＞**

米国の金融政策を巡る思惑に加え、景況感の悪化に対する懸念も株式市場には台頭し始めています。コロナ禍後の財政拡張効果の剥落や、コスト高を受けた消費減退などがその背景です。依然として株式市場は不安定な状態が続くと考えられますが、上海では長らく続いていたロックダウンが解除されるなど、供給制約の解消による生産回復が今後本格化すると見込まれます。

引き続きボトムアップアプローチを通じ、魅力的な投資機会の発掘に努めます。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

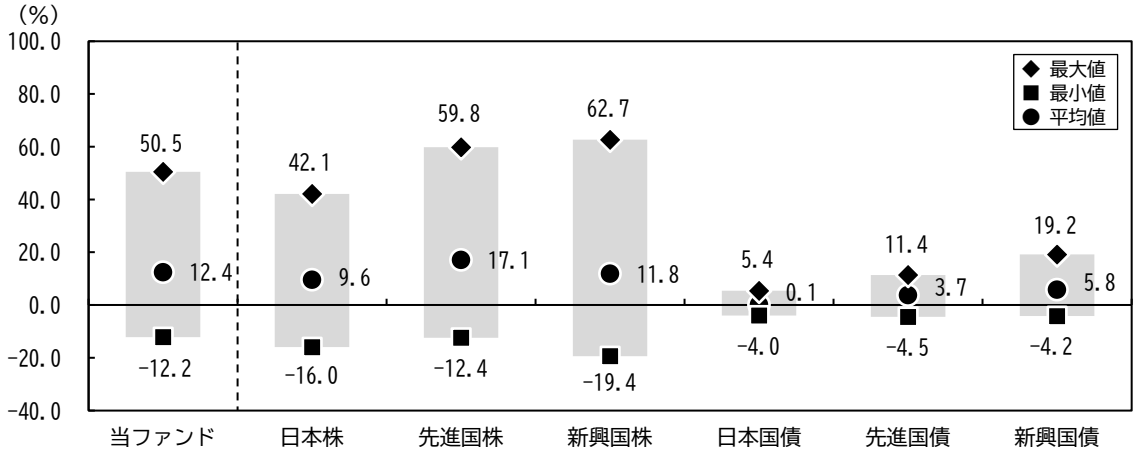
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

| | | |
|---|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信託期間 | 無期限（2016年9月23日設定） | |
| 運用方針 | この投資信託は、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本の金融商品取引所上場株式を中心に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | 主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に実質的に投資します。また、資金動向・市況動向等によってはわが国の金融商品取引所上場株式等に直接投資することもあります。 |
| | スパークス・日本中小型株・マザーファンド | わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 |
| 当ファンドの運用方法 | ① 設定当初および大量の解約が発生した時等を除いて、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、以下の投資態度で臨みます。<br>② 主として金融商品取引所上場株式の中小型株式の中から、徹底したボトムアップ・リサーチに基づいて銘柄を選択し、ポートフォリオを構築します。<br>③ ベンチマークはラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数（配当込み）とし、これを上回る投資成果を目指して運用を行います。 | |
| 分配方針 | 毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。<br>・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。<br>・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。<br>・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |

（参考情報）

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 （2017年6月末～2022年5月末）




（注1）当ファンドは2016年9月23日に設定しているため2017年9月から2022年5月の期間、他の代表的な資産クラスについては、2017年6月～2022年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注2）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注3）当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
（注4）上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日 本 株 ・・・ 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
先進国株 ・・・ MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)
新興国株 ・・・ MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)
日本国債 ・・・ NOMURA－BPI国債
先進国債 ・・・ FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
新興国債 ・・・ FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

＊ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。
＊ 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

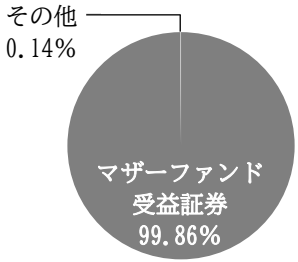
## 当ファンドのデータ

### ■ 組入資産の内容 （2022年6月20日現在）

＜ 組入ファンド ＞

| ファンド名 | 第6期末 |
|---|---|
| スパークス・日本中小型株・マザーファンド | 99.86% |
| 組入銘柄数 | 1ファンド |

＜ 資産別配分 ＞




＜ 国別配分 ＞

＜ 通貨別配分 ＞

※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

### ■ 純資産等

| 項　　目 | 第6期末<br>2022年6月20日 |
|---|---|
| 純資産総額 | 468,634,922円 |
| 受益権総口数 | 251,172,623口 |
| 1万口当たり基準価額 | 18,658円 |

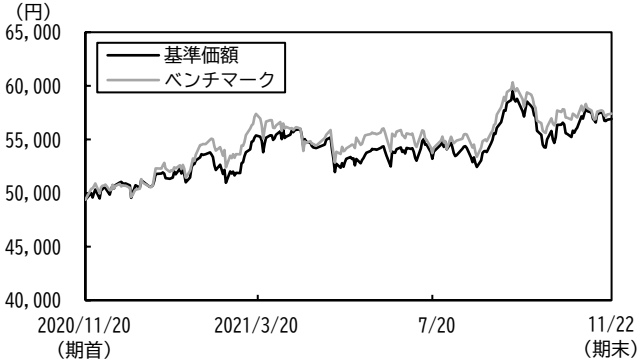
（注）当期中における追加設定元本額は111,194,175円、同解約元本額は20,747,038円です。

## ■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容　（2021年11月22日現在）

【スパークス・日本中小型株・マザーファンド】

＜ 基準価額の推移 ＞

（2020年11月21日～2021年11月22日）




※ ベンチマークは期首（2020年11月20日）の基準価額に合わせて指数化しております。

＜ 組入上位10銘柄 ＞

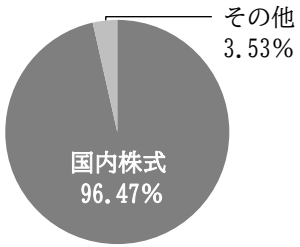
| | 銘　柄　名 | 業　種 | 比率（%） |
|---|---|---|---|
| 1 | 前田工繊 | その他製品 | 4.1 |
| 2 | センコーグループホールディングス | 陸運業 | 3.6 |
| 3 | バリューコマース | サービス業 | 3.4 |
| 4 | セプテーニ・ホールディングス | サービス業 | 3.4 |
| 5 | 山一電機 | 電気機器 | 3.3 |
| 6 | ＮＥＣネッツエスアイ | 情報・通信業 | 3.3 |
| 7 | 三洋化成工業 | 化学 | 3.1 |
| 8 | 日本光電工業 | 電気機器 | 3.0 |
| 9 | 住友ベークライト | 化学 | 2.9 |
| 10 | アルバック | 電気機器 | 2.8 |
| 組入銘柄数 | | 61銘柄 | |

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

＜ １万口当たりの費用明細 ＞

| 項　　目 | 当期<br>2020年11月21日～2021年11月22日 | |
|---|---|---|
| | 金　額 | 比　率 |
| (a) 売買委託手数料 | 35円 | 0.066% |
| （株　　式） | （　34） | （ 0.064） |
| （投資証券） | （　 1） | （ 0.002） |
| 合　　計 | 35 | 0.066 |
| 期中の平均基準価額は53,389円です。 | | |

＜ 資産別配分 ＞




＜ 国別配分 ＞

＜ 通貨別配分 ＞

（注1）1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。2ページ（1万口当たりの費用明細）の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2021年11月22日現在のものです。
（注2）各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。
（注3）国別配分は、発行国を表示しています。

## 指数に関して

### ＜当ファンドのベンチマークである「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」について ＞

ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)はRussell/Nomura日本株インデックスのサイズ別指数です。Russell/Nomura 日本株インデックスは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社及びRussell Investmentsに帰属します。なお、野村證券株式会社及びRussell Investmentsは、ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)を用いて行う事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

### ＜ 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 ＞

**日 本 株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)**

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXは、株式会社ＪＰＸ総研又は株式会社ＪＰＸ総研の関連会社(以下「ＪＰＸ」といいます。)の知的財産であり、ＪＰＸはTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

**先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)**

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

**新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)**

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

**日本国債：NOMURA－BPI国債**

NOMURA－BPI国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、NOMURA－BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社およびその許諾者に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

**先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)**

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

**新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)**

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。